

3R瓦版（11月号）



© 2015 フジコ イトウ All Rights Reserved.

小さめの焚き火

秋らしい日々になってきました。夜は寒くなってきますが実はこの時期、特にキャンプがお勧めです。初心者の方は10月～11月が快適だと思います。きりりとした空気に包まれ、小さめの焚き火を囲む至極の時間を是非試してみてください。『小さめの焚き火』がコツです。意外に難しいですよ。

昭和40年代前半、私は小学生でした。当時は週休二日制なんてなかったですから、祝日絡みの連休の時は、両親がよく行楽に連れて行ってくれました。自分の弁当と水筒、タオルや着替えのシャツなどをリュックサックに詰めてもらい、背負うだけで喜んでたように思います。

最近では「My 箸」「My ボトル」などブームですが、その当時は誰もが普通にしていたことです。コンビニがありませんから、割り箸は買わなければ手にはありません。だから持って帰っていたと思います。ゴミ箱も今ほど整備されていませんでしたが、投棄ゴミはもっと少なかったです。立派な大人、所謂“紳士&淑女”が多かったのだと思います。

はしゃぎすぎているのでしょうか、いざ弁当を開けてみると、きれいだったはずの盛り付けがひどい状態になっていた時がありました。見た目がひどい状態なので食べなくなかったのですが、躊躇していると父親から「残さず全部食べろ」と言われました。母親からは「ごめんね」と言われました。次からは今まで以上にぎっしりと詰めてくれました。

普段から食べ物を残すと叱られるのが当たり前でした。全部食べきれると大人になった気にもなりました。今の子供達にそんな感覚があるのでしょうか？日本の廃棄食糧が大きく報道された時期もありましたが、最近では全く聞きません。改善されているようにも思えません。最近ではコンビニでも「お箸はご入用ですか？」と聞かれるようになりました。食品包装も環境負荷低減を進めています。ただ、供給側がコストをかけて環境負荷低減や3Rに努めても、要は最終ユーザーである私達の行動にほとんどが委ねられることを忘れてはならないと思います。

ゴミ箱の設置で街中、行楽地は綺麗になるでしょうが、その維持、管理、回収にコストはかかります。廃棄食料や残飯を減らすには大中小のパックサイズを作るのも一つの手段でしょうが、何よりも食の好き嫌いを無くし、残さずに食べることが“紳士&淑女”の第一歩なのだよと、幼少期から繰り返し躡りていくことが、根本解決になるのではないかと思います。

洛陽技研株式会社 代表取締役社長 田中 秀和

RepairFactory (株)本杉工機

京都府久世郡久御山町田井新荒見 220 番地

tel : 0774-66-6254